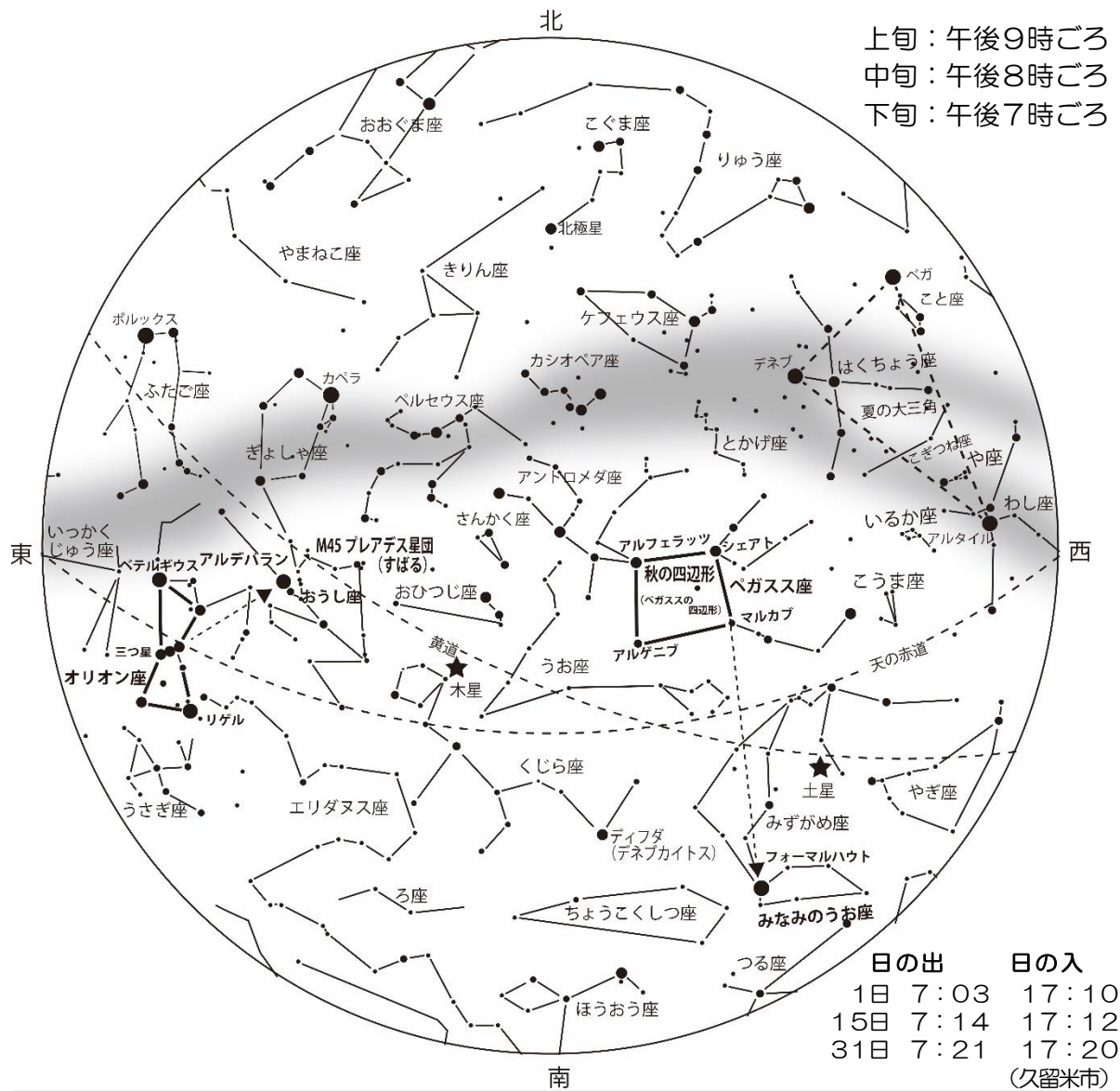


令和5年 12月の星空さんぽ☆ガイド

～ほしを眺めてみませんか～



★12月の星空案内

12月は南から西の空にかけて見ごろをむかえた秋の星座が、そして、東の空には冬の星座たちが見えはじめています。秋の星座探しの目印になるのは、南の空高い所にある四角形の星の並びです。アルフェラツ・シェアト・マルカブ・アルゲニブの4つの星でつくる四角形の星の並びは『秋の四辺形』と呼ばれ、秋の星座探しの良い目印となります。シェアトとマルカブを結んだ線を地平線の方にのばすと、1等星のフォーマルハウトが見つかります。ここにはみなみのうお座があります。

冬の星座探しの目印になるのは、東の空低い所に見えるオリオン座です。オリオン座は等間隔に並んだ3つの星『三つ星』とそれを取り囲む4つの星でつくる砂時計のような星の並びを目印に見つけることができます。オリオン座の砂時計のような星の並びの左上で赤っぽく輝く星が1等星のベテルギウス、右下で青白く輝く星が1等星のリゲルです。そして、オリオン座の『三つ星』をむすんだ線を北西（地平線とは逆の方向）にのばしていくと、オレンジ色に輝く1等星のアルデバランが見つかります。ここにはおうし座があります。アルデバランのすぐ近くには、M45プレアデス星団（すばる）というたくさんの星の集まりがあり、肉眼では青白い6個～7個の星を見つけることができます。平安時代に清少納言が枕草子の中で「星は、昴（すばる）。彦星（ひこぼし）。明星（みょうじょう）。夕星（ゆうづつ）・・・」と最初にすばるの名をあげてその美しさをうたったほどです。また、今月は日の出前の南東の空に金星が、日の入り後の南の空には土星と木星が輝いています。特に金星と木星は明るい星が少ない秋の星空でひとときわ明るく輝いているため、見つけやすいでしょう。

今月は22日に冬至を迎えるため、夜が長く、星空を長い時間見ることができます。暖かい服装で年の瀬の星空を眺めてみてはいかがでしょうか。

【見ごろの惑星】（☆マークは、今月のおすすめです。）

- 水星（1.5等前後）：いて座→へびつかい座付近 観望に適さない。
- ☆金星（-4.1等前後）：おとめ座→てんびん座付近 日の出前、南東の空でひとときわ明るく輝く。
- 火星（1.4等前後）：さそり座→いて座付近 観望に適さない。
- ☆木星（-2.7等前後）：おひつじ座付近 木星（-2.7等前後）：おひつじ座付近
- ☆土星（0.9等前後）：みずがめ座付近 日の入り後、南西の空で明るく輝く。

注目の天文現象（12月）～今年1番見つけやすいふたご座流星群を観察しよう～

12月は、三大流星群の一つであるふたご座流星群を見ることができます。特に今回のふたご座流星群は、今年の流星群の中で唯一観察条件が最良となっており、観察に期待がもてます。ふたご座流星群が普段より目立って多く見えるのは12月13日(水)～12月15日(金)となっています。どの夜も21時ごろから見える流星の数が増え、夜明けを迎える翌朝の5時ごろまで観察することができます。流星は「放射点」と呼ばれる場所から、放射状に出現するように見え、放射点から離れた位置で光り始め、放射点とは反対方向に移動して消えます。最も多く流星を観察できるのは、12月14日(木)の21時ごろから翌日15日の明け方になります。14日の21時ごろから1時間あたりの流星数が30個を超え、放射点が高い空に達する15日の0時から3時ごろでは、目の良い人や街明かりの少ない暗い空で見ることができた場合は1時間あたり70個に達する可能性がある予想されています。

今回のふたご座流星群の予想流星数は、ここ数年のうちでは最も多く、絶好の観察条件となります。ぜひ暖かい服装をして観察してみてください。